

石田三郎教授のご退職に際して

昨年度当学部では、永年教育・研究に携わってこられた多くの先生方を残念ながらお送りいたしました。

石田三郎教授もその内のお一人で、1999年（平成11年）3月31日をもって関西学院大学を退職されました。教授は1956年（昭和31年）3月関西学院大学経済学部を卒業されています。その後1962年（昭和37年）4月本学大学院商学研究科に入学され、1968年（昭和43年）4月に専任講師に就任されました。それ以来今日に至る迄31年にわたって母校での教育・研究と行政に力を尽くされ、その功績は大きいものであります。

とくにその間多くの卒業生を実業界に送り込まれ、また多くの研究者を輩出され、現在彼等は各界の第一線で活躍しておられます。

教授の研究活動は会計学の領域で会計監査論における第一人者として多くの業績を残されています。その成果が『監査証拠論』（1978、中央経済社）さらには博士学位論文『監査意見形成論』（1983、中央経済社）に集大成されています。昨今、社会での企業における経営者不正が問題になっておりますが、それ以後の教授の研究は企業監査にとどまらず会計倫理の領域へと進められ、大いに注目されています。

さらにこれらの教育・研究の本務に加えて、行政面でのご活躍にも目を見張るものがありました。学部では学生主任、教務主任を歴任され、1990年（平成2年）から1992年にかけて学部長を務めておられます。また大学では学長補佐（1989～90）を、学院では学院評議員（1989～95、1997～98）を、そして常任理事（1992～98）を6年間務められ、学部、大学、学院に多大な貢献をなさいました。

石田三郎教授のご退職にあたり、当学部ならびに関西学院の教育・研究、行

政に対する永年にわたるご貢献を称え、深い感謝の意を表すためにここに記念号を発行できることは大きな喜びであります。

終わりにあたり、この記念号の刊行に際してご執筆いただいた先生方、そして記念号の編集にご協力いただいた論究委員会の先生方に心からお礼を申し上げます。

1999年 7 月

商学部長 今 井 讓